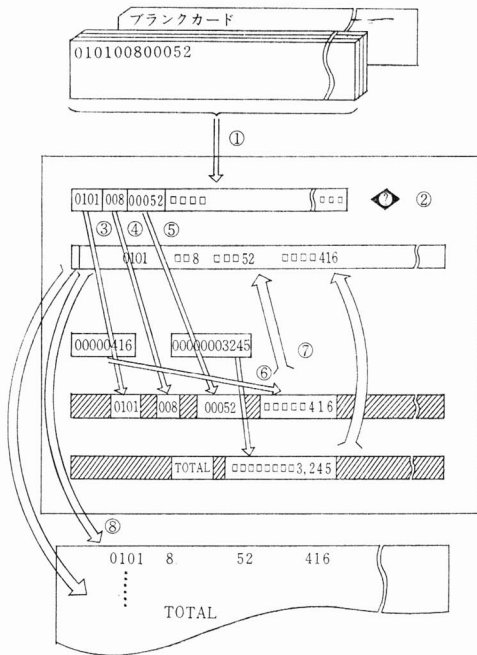
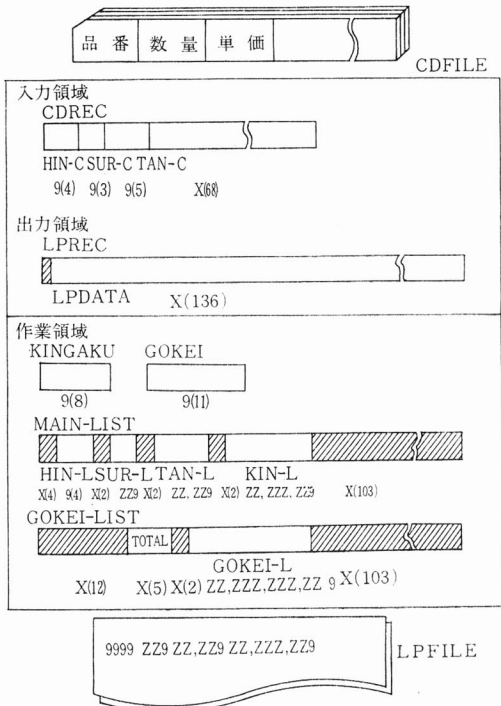


図 1

データの流れ



領域図



〔使用上の留意点〕

(1) 1 台のテレビジョンで20型のものなら、生徒15名以

下、12型のものなら5名程度を割当てようとする。
(2) 画面を見てノートさせることは絶対に避けるように
すること。補助テキストを作成して与えるなどの配慮
が必要である。

V. T. R. のテープをあるメーカーが製作し、COBOL
や FORTRAN の初級者教育用に採用しておったが、集
団指導の中の個別化や個別指導の理想的な形態からみれば問題点があるとはいいながら、内容構成がまったくの
初心者にも マシン・オペレーション の状況やプログラ
ミングが理解しやすいように録画されており、マグネッ
ト・プレートを用いた映像によるプログラミングの指導
など効率的な方法で動的提示がなされている。必要に応
じて貸すことになっているので、機種にあったものの提
供をうけ活用するとよい。

市販のテープは、とかく各校のシステムにそのままあ
てはまらない内容があるので注意を要する。

3. フィルム

フィルムには映画フィルムとスライド・フィルムがあ
るが、「電子計算機の利用」などの指導項目のように、
見学の形式で指導することが望ましい事項に適するとさ
れている。電子計算機が設置されてない学校で情報処理
教育を実施する場合の導入やまとめとしてよく用いられ
る。

〔使用上の留意点〕

- (1) 映写する場合は、周到な準備が必要であり、デッ
ト・タイムをつくらないようにする。
- (2) 1 回の映写時間の標準は、15分~20分であり、スラ
イドのコマ数は、45コマ~60コマ(1分3コマぐら
い)がよい。
- (3) 映画フィルムの場合には視聴内容の定着度は一般に
低い。したがって事後に話し合いまたは講義によるま
とめが必要である。

む す び

教材の主なものは教科書であろうが、視聴覚教材は教
育の現代化を図る有力な「にない手」であり的確な利用
は、日常の教育を能率的・効果的にし、生徒が将来適
用、応用のできる真の学力を身につけさせることにな
る。情報処理教育が「どの生徒にも理解できるように学
習させる」指導法の一つとして視聴覚教材の利用をとく
にはかる必要がある。視聴覚教材は実に幅広く多様であ
り、前述したものはほんの一部にすぎないが、その利用
にあたっては、指導の目標に照らしつつ、指導内容を理
解させるうえに最も価値あるものを精選することが必要
であろう。そのためには教科書その他の教材・教具との
組み合わせを考えながら学習過程の中に正しく位置づけさ
れるよう配慮する必要がある。